

1 研究テーマ

「コミュニケーションの力を高め、表現活動に意欲的に取り組む授業のありかたはどうあったらよいか。」

2 研究内容

研究授業の実施

- ・ 期日 11月15日(水)
- ・ 学校名 須坂市立相森中学校
- ・ 単元名 「中学校説明会を成功させよう～小学生とのコミュニケーションをめざして」
- ・ 学年 1学年

研究内容

前年度の本研究委員会研究の方向を受けて、小中学校を見通したつきたい力として、「コミュニケーションの力」をつけるための実践のありかたを探ってきた。委員会では、まずコミュニケーションの力を育む上で大切にしていきたいことはどんなことかを話し合い、検討するとこから始まった。

コミュニケーションの力を指導していく上で大切にしていきたいこと

- ・ 話したい内容を持たせる指導について(内容)
- ・ 話す必然性がある場の設定について(場)
- ・ 相手意識を高めさせていく指導について(相手意識)
- ・ 話し方の指導について(話し方)

これらを単元展開の基本に据え、指導の方向について研究を深めてきた。(以下概要)

- 1) 小学校高学年から現在(中学校)までのコミュニケーションの力に関わる日常生活実態の調査及び把握。
- 2) 「系の学習」で目指す具体的な力の観点から見た生徒の自己評価。
- 3) 指導方法の方向性(仮説の設定)「内容」「場」「相手意識」「話し方」に即して検討。
- 4) 小学生と直接コミュニケーションする実の場の設定の仕方について検討。
- 5) 事前授業(7月7日)の実施。
(スピーチの進め方の工夫、スキルの仕方、メモの活用、相手意識の醸成等について)

3 研究の成果

- ・ 事前授業では生徒にスピーチの仕方について明確な課題意識を持たせようと、日常生活の中からVTRを作成・紹介し、生徒の心情に合った音声言語教材にすることができた。
- ・ スピーチのグループスキルの段階において、内容原稿を読む段階からキーワードを選択しメモさせる段階へと配慮し、視線や態度など生徒の評価視点を明確にできたりした。
- ・ 小学生のご協力により、「実の場」を設定でき、相手意識の高い指導を目指すことができた。
- ・ 児童生徒にどういう学力をつけていきたいか、各小中学校のカリキュラムの摺り合わせが相互に大切になってくる。今回はそこまで深めることができなかったが、より検討をしていく内容と言える。

